



米国生まれの日本育ち 生産・物流シミュレータ
FACTOR/AIM ユーザ企業紹介

MBK流通パートナーズ株式会社 様

物流のカギとなる庫内作業をシミュレータで最適化

物流センターにおける作業員の作業効率を短期間で向上させたい。
改善提案を一目瞭然なものにしてお客様のコンセンサスをスムーズに得たい。
三井物産系の物流コンサルタント会社、MBK流通パートナーズは、
そんな課題にFACTOR/AIMを活用して挑もうとしている。



MBK
流通パートナーズ株式会社
営業本部 IT推進部
大塚 茂氏

庫内作業フローの適正化が 物流センターにおける最重要ポイント

物流センターの改善提案において、庫内作業フローのボトルネックを探し出すこと、改善策の結果検証を行うことは重要な課題だ。庫内の入荷作業や出荷作業は、基本的に人間による作業であり、作業時間や仕事量を標準化することは困難。これまで、その生産性が適正か評価することは容易ではなかった。主に食品流通関連企業のロジスティクス改善を専門にしているMBK流通パートナーズにとっても、この庫内作業フローに沿った生産性の把握は、物流センターの庫内作業を改善するためのポイントとなっていた。そこで同社が選んだ方法がFACTOR/AIMによるシミュレーションだ。

MBK流通パートナーズでは、FACTOR/AIMを利用したシミュレーションシステム「M-WAC」

を構築。現在、2002年中のサービス提供を目標に、最終の検証作業を重ねている。「M-WAC」では、顧客から提供された庫内レイアウト・実績データ、標準時間などを元に、現実に関わりなく近い環境を構築。入荷から格納、ピッキング、出荷作業までの流れを正確にシミュレーションする。

FACTOR/AIMのシミュレーションで
適性人員を正確に把握することが可能に
「FACTOR/AIMのシミュレーション結果が生産性評価の目安になるので、適正人員の見直しが正確に行えます。改善した作業フローを稼働させる前に検証することができますので、お客様にも安心してスタートを切っていただけだと思います」と語るのは、このサービスの

提供準備を進めているIT推進部の大塚茂氏。まず、現状を分析し、さらに改善案をシミュレーション、そしてソリューション後の効果検証と、MBK流通パートナーズでは、三段階に渡ってコンサルティングに生かしていくという。もちろん、「M-WAC」は人員配置だけでなく、棚のレイアウトといった部分でも、さまざまな組み合わせを事前にシミュレーションすることが可能だ。あらゆる可能性を目に見える形で確かめられる「M-WAC」は、この点でも大きなアドバンテージを持っている。「検証のためにデータを提供していただいているお客様には、まだかまだかと急かされています」と大塚氏も語るように、これまでになく庫内フローのシミュレーションは、物流のこれからを大きく変える可能性を秘めている。



庫内ピッキング作業のシミュレーションモデル図

MBK流通パートナーズ株式会社

創業	1997年12月25日
従業員数	25名
売上高	13億円(2002年2月実績)
事業内容	サードパーティ・ロジスティクス、 情報システム提案、リテールサポート、 食の総合サイト「Food's-Foo」 (www.foods.co.jp)運営

詳しくはこちらまで ▶ www.kke.co.jp/csrp/ 株式会社 構造計画研究所

数理技術部 シミュレーション技術室

〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3 TEL. 03-5342-1124 FAX. 03-5342-1224

※CSRPIは構造計画研究所が商標登録出願中です。※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。